

平成30年8月31日(金)

老球の細道434号

8月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

8月は太平洋戦争のことについて考えさせられた。今年で73年経過するが、300万人もの死者を出した理不尽な戦いに憤りながらTV番組、新聞記事に目を通した。

幼稚園の夏休みが終わった。孫娘が幼稚園に行きたくないと毎朝駄々をこねるようになった。かつて教育の現場にしながら無力の爺様。泣く泣く幼稚園バスに乗り込む戦いの朝が続く。人生には色々な戦いがある。泣く孫と暑さには勝てなかった8月だった。

1・TVから

◆「教えることはできない。一緒に学ぶことはできる」〈BS11『とことん歴史紀行』吉田松陰〉

会津出身者からは長州の維新の英雄を育てた松陰は認められない人物かもしれないが、彼の情熱と行動力には理屈抜きで脱帽せざるをえない。25年前に下田で撮影した吉田松陰の写真は今でもノートに収めてながめている。凄い実力を持ちながらも「一緒に学ぶ」という謙虚な姿勢が誰からもリスペクトされる。指導者はこうありたいものである。

2・読書から

◆「幸福な人が笑顔になるのではなく、笑顔の人が幸福になれる」〈『コーチングクリニック』 マイナス思考の指導者に教えられる子どもたちは不幸である。バスケットボールは人を幸福にするためにある。常に笑顔で子どもたちに接し、周囲を幸福にしたい。

3・新聞のコラム等から

◆「人生、七味とうがらし」〈朝日・折々のことば・ある占い師〉

うらみ、つらみ、ねたみ、そねみ、いやみ、ひがみ、やっかみ。人を翻弄する七つの性は他人との比較から生まれる。目指すは「なりうる最高の自分」。競争相手は自分自身。

◆「朝は必ず来る」〈行方不明発見者のスーパーボランティア・尾島春夫氏〉被災者を励ますためのこの言葉をヘルメットに記し、日夜ボランティア活動に日本全国駆け巡っている。78歳になっても人助けができるのは毎朝8キロ走ることと車に生活用具一式を積み込んでおく準備だという。寝付かれない時にこの言葉を思い出す私とレベルが違う。

◆「こんなに緊張することないんだから、楽しまなきゃもったいないよ」〈朝日・新体操元日本代表・畠山愛理〉

ロンドン五輪の本番直前、指導をしていた山崎浩子監督から言われたアドバイスである。かつて緊張した選手に蚊取りスプレー「キンチョール」を吹き付ける真似をしたらヒンシュクをかっただことがある。指導者が自分だけ楽しまず、選手をリラックスさせる「一言」のバリエーションをたくさん携帯していたいものである。

◆「練習からシュートレンジを広げる意識づけと、ミスを恐れずに打つことを求めた。弱点とあきらめずに、むしろ武器にするような発想は全世代を通じて必要だ」〈朝日・U-20女子サッカーW杯優勝池田監督〉

日本女子サッカーは今回の優勝で3つのカテゴリ(U-17, 20, 代表)で世界NO1となった。バスケットボール界が弱点を武器にするのは、リバウンドとコンタクト、そしてワンハンドシュート。サッカーにできてバスケットボールにできないわけがない。